

# 国語

〔実施時間50分〕

## 注意

- 1 開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答は、全て解答用紙に記入しなさい。
- 3 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- 4 解答を選択肢から選ぶ問題は、記号で書きなさい。
- 5 問題用紙は、冊子の形になっています。
- 6 問題は、表紙の裏を1ページとし、6ページまであります。開始の合図で問題用紙の各ページを確認し、始めなさい。

一 次の【本の一部】と【資料】を読んで、後の1から5までの各問いに答えなさい。

【本の一部】

私たちはなぜ甘いものが好きなのか？ なぜ塩味や油脂が好きなのか？ もちろん、人によって好き嫌いはあるものの、多くの人は甘いお菓子を好み、ゆで卵には塩をかけたいと思ひ、フライドポテトや霜降り肉が好きである。

ヒトにこのようなⅠがたい嗜好があるのは、糖類も塩も油脂も、私たちの生存上は非常に重要な要素なのに、これらがふんだんに手に入ることなど、人類進化史を通じてほとんどあり得なかったからだ。非常に重要で、かつ、めつたに手に入らない栄養であるので、それに対する格別の好みが進化した。幸運にも手に入った時には、できるだけそれを摂取せよというのが遺伝子の要求だ。

糖分も塩も油脂も、私たちがそれを強く欲するがゆえに、①この一〇〇年余りの文明において、これらをあり余るほどに生産する技術が開発され、安く市場に回るようになった。ところが、遺伝子の要求水準は依然として高いままに設定されている。なぜなら、進化史において、これらが必要以上に存在するという状況はなかったのだから。これでは、欲求に歯止めをかけるメカニズムは進化できない。人間が自分自身で開発した文明において、短い時間のうちに供給サイドを大幅に拡張し、②摂取に歯止めがきかない状態を自ら作りだしてしまったのである。

一八世紀の啓蒙思想家のルソーは、週に一度だったか、就寝前にとっても濃い砂糖水をなめるのが楽しみだったそうだ。ほんの二五〇年ほど前、当時の豊かな西欧文明においてさえ、砂糖はそれほど貴重だったのである。ルソーがコンビニに並ぶ大量の安いお菓子や清涼飲料をながめ、メタボの子どもたちを見たならば、心底仰天するに違いない。

甘いものを食べ過ぎてはいけないという認識は、教育と情報提供によってかなり広がってきた。しかし、目前の欲求はいかに強いものか。だからダイエットは難しいのである。

ダイエットが難しいのには、もう一つ理由がある。今お菓子を食べるの

は現在の確実な満足だが、ダイエットが功を奏するのは将来の不確実な満足である。現在と将来の楽しみを比較すれば、まずは現在の楽しみが優先され、将来は割り引かれる。この現象はヒトに限ったことではなく、多くの動物がそうであり、時間割引と呼ばれている。

しかし、割引率は誰でも同じではない。例えば、今切羽詰まった状態にある人ほど時間割引率は高い。今困っている人にとって、一週間後の満足などは無に等しい。コストの方も同じように時間割引されるので、今一万円借りられれば、一週間後に法外な利息がつくことは割り引いてしまう。

また、一般に青少年は成人よりも時間割引率が高い。青少年は自身の成長のために、食欲に資源を得ていかねばならないライフステージなので、成人よりも「今、ここ」を重視するよう、進化的につくられているのである。そこで、③万引きやけんかなどの衝動的な犯罪の率も、青少年の方が成人よりも高い。今欲しいものを手に入れること、今競争に勝つことが、将来の他の喜びよりも重要だからである。

欲求や情動は、ヒトの進化の過程で作られてきた。だから、甘いものはおいしいし、目前の楽しみは将来の楽しみに勝る。しかし、私たちの脳は、欲求や情動が一人で勝手に採配をふらないようにする装置も持っている。それが前頭葉だ。目の上の、おでこの奥にある脳の部分である。

前頭葉は、欲求や情動やさまざまな感覚器からの情報を集め、これまでに学習した知識を思い出し、現在と将来を比較して、全体を総合的に判断する。脳の進化の中では最後に現れた部分で、ヒトは脳全体に対して最も大きな前頭葉を持っている。④欲求や情動は、生きる動機付けを与える原動力である。その上で、前頭葉が総合判断をするわけだが、そのことが分かっているならば、やみくもに「理性」を信じるよりも、人間がよりよく理解できると思うのである。

(長谷川 眞理子『モノ申す人類学』による。一部省略がある。)  
(注) 嗜好：好み。ライフステージ：一生における各段階。

明治初年ごろでは、まだ、社会の上層階級の少数の人々ではあつたけれども、横浜の三河屋、東京の精養軒・風月堂などに代表されるような洋食店で、洋風料理を味わうようになった。とくに、洋生菓子や紅茶・コーヒーなどの嗜好食料に、近世では全く知られなかつた砂糖の新しい使途が開けてきたのである。やがて明治十年代に入ると、上層階級のみではなく、一般国民も洋食ないし洋風料理を口にすることができるようになってきた。とくに、政治の中央集権化にもなつて、東京に集まるようになった書生たちが、砂糖を調味として多量に用いた牛鍋や安愚楽鍋を好んで囲んだことなどは有名な事実である。

このように、砂糖が多方面にわたり、多量に使用されるようになった。

(雄山閣出版株式会社発行『全集 日本の食文化』全12巻

第五巻 油脂・調味料・香辛料』による。一部省略がある。)

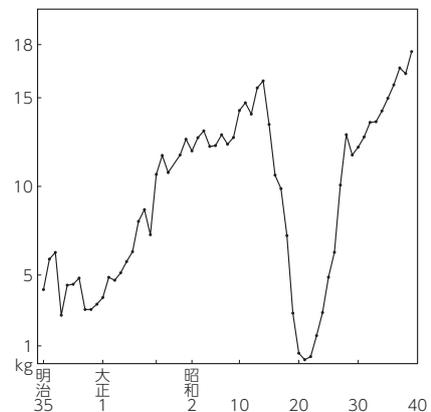


図 砂糖消費量年次推移 (1人1年当り)

1 【本の一部】の空欄 I にあてはまるものとして、最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あらい                      イ 受け入れ                      ウ 想像し                      エ 言い

2 【本の一部】の——線部①について、筆者が砂糖に関して述べていることは、どのようなことからわかりますか。【資料】を参考にしながら、解答欄の「日本では」という書き出しに続けて、五十字以内で書きなさい。

3 【本の一部】の——線部②について、これはどのようなことですか。最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 糖分も塩も油脂も一〇〇年前と比べて貴重ではなくなつたが、遺伝子の要求水準はこれまでより高く設定されているということ。  
 イ 糖分も塩も油脂も生存する上で重要な要素ではなくなつたが、生活の場では依然として必要以上に存在しているということ。  
 ウ 糖分も塩も油脂もふんだんに手に入るようになったが、できるだけそれを摂取せよという遺伝子の要求は変わらないということ。  
 エ 糖分も塩も油脂も供給する技術が大幅に拡張されたが、人間の欲求に歯止めをかける仕組みは開発できていないということ。

4 【本の一部】の——線部③について、筆者がこのように述べているのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 青少年は自分自身を成長させるために必要な資源が多いから。                      イ 青少年は将来の楽しみより目前の楽しみを重要視するから。  
 ウ 青少年は「今、ここ」を重視するように教育されているから。                      エ 青少年は成人に比べて、時間割引される満足が少ないから。

5 【本の一部】の——線部④について、これはどのようなことですか。「采配」という言葉を使って、五十字以内で書きなさい。

さゆりさんたちは、国語の時間に、「文化・文明」について理解を深めています。次は、その時に読んだ【本の一部】と、その時の【話し合いの一部】です。これらを読んで、後の1から4までの各問いに答えなさい。

## 【本の一部】

いまの文明は壁に突き当たっているのではないか、そう感じたとき人々は、現在の文明を超えることのできる新しい文明を探しだそうとした。そして、そのときヒントを与えてくれるものに「過去」があった。もちろん、自分たちとは違う文明をもっている諸外国がヒントになるときもある。たとえば、明治の日本は欧米をヒントにして近代日本をつくらうとしたし、近代的世界のなかではたえずアメリカやアフリカ、アジアの先住民の文明から学び取ろうとする人々も生まれていた。だがそれだけがすべてではない。自分たちの歴史のなかにある「過去」を読み直すことによって、そこから未来へのヒントをえていこうとする方法がある。

たとえば、日本ではこの数十年の間に、江戸時代の評価が大きく変わった。かつては封建主義のもとで自由がなく、重税にあえぐ社会というイメージで語られていた江戸時代が、多様な文化を生み出した案外自由な社会としてとらえられるようになったのである。

この変化をうながした理由のひとつも、現代世界への疑問だった。誤りや失敗はあっても私たちの歴史はよい方向に向いているという感覚が広がっていた間は、過去は乗り越えられた過去として、その悪い面がとらえられていたのである。ところが、いまの文明は本当に発展しているのかという思いがでてくると、そういう視点をもちながら過去をとらえようとする動きがでてくる。そのとき、一面ではいまよりも優れたものをもっていた過去が感じられるようになった。

どちらの過去が正しい過去なのか問題なのではない。現在の問題意

識が、その問題意識によってみえてくる過去を変化させているのである。その結果、江戸時代の巧みな文化や社会のあり方が、未来へのヒントを垣間見させることとなった。

化学肥料や農薬を多用した戦後の農業に、農業のあり方としての壁を感じた人々は、やはり過去の農業の読み直しを行った。そこからヒントをえて生まれてきたのが有機農業である。過去の農業からヒントをもらいながら、新しい農業をつくったのである。

「伝統回帰」とは昔の状態に戻すということではない。過去からヒントをもらい、そのヒントを活かしながら新しいかたちをつくりだすことである。

今の現状に壁を感じた人たちのなかからは、そういう問題意識をもちながら過去から学ぶ動きがでてくる。そしてそれもまた異文化の発見であった。過去にこれからのヒントを与えてくれる異文化を見つけたのである。

経済活動に倫理性を求めていくのもまた「伝統回帰」だ。あるいは、自然と調和する経済のかたちを探していくのも「伝統回帰」である。もちろん、それは正確にとらえられた「伝統」ではない。いまの問題意識からみいだされた「伝統」である。

(内山 節)『半市場経済 成長だけでない「共創社会」の時代』による。  
一部省略がある。

(注) 封建主義：身分の上下を厳しく取り決める考え方・やり方。

【話し合いの一部】

さゆりさん…現在の文化や文明に問題があるのではないかという意識は、確かにあるね。そうした疑問を持ったとき、どのようなものから学ぶことができるかが述べられているよ。

わたるさん…そうだね。【本の一部】で、たとえば日本が欧米をヒントにすることで近代日本をつくろうとしたように、違う文明をもっている諸外国から学ぶこともあるとされているよ。それだけではなく、自分たちの歴史の中にある「過去」を読み直すことで、未来へのヒントをえていく方法もあるんだね。

あかね先生…過去の例として、江戸時代が挙げられていますね。近年で、江戸時代の評価が大きく変わったとされています。

さゆりさん…江戸時代は多様な文化を生み出した自由な社会としてとらえられるようになったのですね。

あかね先生…江戸時代に対する評価は、どのようなきっかけで変わったと読み取りましたか。

わたるさん…変化をうながした理由のひとつとして、いまの文明は本当に発展しているのか、という現代世界への疑問が挙げられています。

さゆりさん…そういった視点をもちながら過去をとらえようとする動きがでてくることで、ある一面では【I】が感じられるようになったと読み取ることができます。

あかね先生…そうですね。評価が変化する前と後とで、どちらの過去が正しいものなのかは問題ではないとされていますね。

さゆりさん…【本の一部】では、「伝統回帰」という言葉が挙げられています。過去の見方を変えているため、この伝統は、正確に【II】であると考えられます。現代への問題意識を持って、過去から学び、どのように伝統回帰をすることができるのか、考えてみたいと思います。

1 【本の一部】の——線部について、これはどのようなことですか。【本の一部】から、説明にあたる一文を探し、はじめの五字を書きなさい。

2 【話し合いの一部】の空欄【I】にあてはまる適切な内容を、【本の一部】から、十八字で抜き出して書きなさい。

3 【話し合いの一部】の空欄【II】にあてはまる適切な内容を、【本の一部】の「問題意識」という言葉を用いて、三十五字以内で書きなさい。

4 【本の一部】の——線部について、「過去」を読み直すことによって、どのような未来へのヒントがえられるとあなたは考えますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 あなたが考える過去を読み直すことと、そこからえられる未来へのヒントを、具体例を挙げて書くこと。ただし、【本の一部】に出ている具体例以外を用いること。

条件2 原稿用紙の正しい使い方にしたいが、百字以上、百四十字以内で書くこと。



4 次の【詩】を読んで、下の①から③までの各問いに答えなさい。

【詩】

また来ん春……

また来ん春と人は云ふ  
しかし私は辛いのだ  
春が来たつて何になる  
あの子が返つて来るぢやない

おもへば今年の五月には  
おまへを抱いて動物園  
象を見せても猫といひ  
鳥を見せても猫だつた

最後にみせた鹿だけは  
角によつほど惹かれてか  
何とも云はず 眺めてた

ほんにおまへもあの時は  
此の世の光のたゞ中に  
立つて眺めてゐたつけが……

(中原 中也『在りし日の歌』による。)

① 【詩】の~~~~線部I「だ」と同じ働きをしている「だ」を、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 休みの日の駅前は静かだ。      イ 読みかけの本にしおりを挟んだ。  
ウ 友人は旅行に行くそうだ。      エ 調査結果は予想していた通りだ。

② 【詩】の——線部を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

③ 次は、【詩】の各連の内容について説明したものです。第三連について説明したものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 幸せな世界にいた子どもが、そこからいなくなったことを嘆いている。  
イ 子どもが、動物を食い入るように見つめていたことを思い出している。  
ウ 新しい季節になつても戻つてこない子どもを思つて悲しくなっている。  
エ 子どもが、どの動物も同じ動物だと思つていたことを思い出している。

